

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 E.F

## 1. はじめに

この度国際交流基金の助成を受け、8月15日から8月22日にわたるバンクーバーサマープログラムに参加いたしました。このプログラムで学んだことや感じたことについて報告します。

## 2. 医療施設見学について

バンクーバー市内の病院の薬局及び病棟を見学しました。訪問した病院はバンクーバー総合病院、およびリッチモンド病院です。バンクーバー総合病院では、必要な薬を自動で取り出してくれる機械や、病棟に薬を送り出すシステムなどを見せていただき、どのように薬が患者さんへと渡ることなのかを知れてとても興味深かったです。また背骨専門の病棟があることを知り驚きました。リッチモンド病院では、そこで働く日本人看護師の方のお話を聞く機会がありました。カナダと日本の医療倫理観の違いや、他の職種との関わり合いにおける違いなど、日本とカナダ両方の医療現場を経験しているからこそのお話が聞いて視野が広がりました。

## 3. 語学学習について

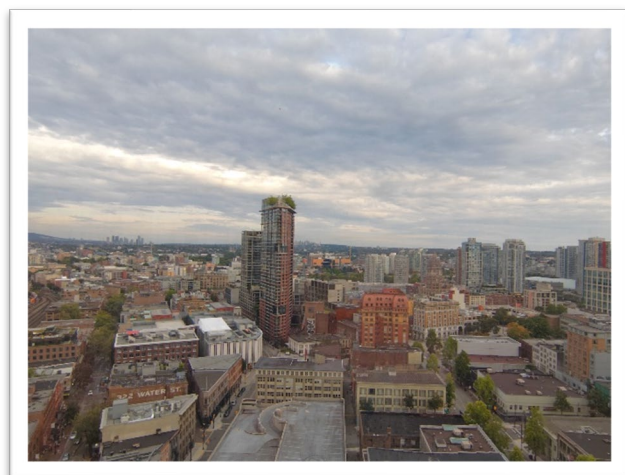
バンクーバーに滞在している間は、Cornerstone International Community College of Canada(CICCC)に通い主に医療英語を勉強しました。3日間と短い期間でしたが、患者さんへの英語での服薬指導の仕方などを学び、とても為になったことから英語ができる薬剤師への憧れが増しました。大学での英語の授業が活きた時もありとてもうれしかったです。授業はクイズ形式で進められることが多く楽しむことが出来ました。先生も気さくな方で、病院見学に行った次の授業では感想を聞いてくださったり、患者さん目線でカナダの医療がどうかを話してくださったり、リラックスして授業を受けられました。

## 4. ホームステイについて

私にとってホームステイは初めての経験だったということもあり、ホストファミリーに会う前は緊張していました。日本でも口下手で人と話すのが苦手な私はとにかく不安でいっぱいでした。けれどもホストマザーやそのシスターがおおらかで気さくな人で、初めから暖かく迎え入れて下さり安心して過ごすことが出来ました。ホームステイした場所はマザーが借りていた場所で、2日目の夜はマザーの実際に住んでいる家でマザーの家族とともに夕食を食べました。サーモンが出たのですがなんとマザーの旦那さんが釣ってきたものでとても驚きました。他にも野菜や果物を自家栽培していて、出された野菜や果物のほ

とんどがそれにあたりこれにも驚きました。とても新鮮でおいしかったです。ここで出されたブルーベリー（これもファミリーが育てたもの）があまりにもおいしかったので好き好き言っていたら、次の日のランチ、最終日空港へ向かうための車のお迎えを待っている間にも出してくれて嬉しかったです。言い過ぎかもしれませんが合わせて百粒くらい食べた気がします。ファミリー全員親しみやすく、写真や動画を見せながらたくさん話しかけてくれて楽しい夕食のひと時となりました。

今回飛行機の都合でホストファミリーと一日過ごす予定がなくなってしまったのでなかなかゆっくりマザーと会話する機会がなくてもどかしく感じていました。しかし最終日に時間があったので私の部活の内容やバンクーバーで何を食べたか買ったかの話で盛り上がり良かったです。マザーとも交流できたという達成感がありました。



## 5. おわりに

私は今回渡航するにあたって次のような目標を立てていました。

一つ目はとにかく英語を話して相手に伝わるように努力することです。英語自体はもともと好きでしたが実際に話す機会がなかなかなく、せっかく英語を学んできたのにもったいないという気持ちがずっとありました。その気持ちもあり今回の研修を通して英語で交流できたという達成感を得て自信をつけたいと思っていました。この目標は概ね達成できたのではないかと思います。実際英語での表現に困ることは何度もあったけれど、自分の今の英語力で言える言い方がないか考えてそれを言うことができるようになったので、その点では成長できたと思います。渡航前は自分でも気づかないうちに正しく英語を話すことに焦点を当ててしまっていたのですが、渡航を通して正しい英語と伝わる英語は違うことに気づかされ、とりあえず英語を話してみても伝わったらそれで交流できたことになるのではないかという考えになりました。

二つ目は新しいことに挑戦するための自信をつけることです。私はこれまで新しいこと

を始めようと思っても期待よりも不安が先に押し寄せてなかなか一步を踏み出せずにいました。今回のプログラムへの参加も正直に言うと不安の方が大きかったです。ただ参加を決めてからは、ホームステイを通して異なる文化に身を置くことで新たな環境へと飛び込む勇気を出す機会にしようと考えていました。渡航を終えた今、その目標は達成できたと断言できます。なぜなら渡航を通じてもっと海外の医療について知りたい、もっと英語でコミュニケーションをとれるようになりたいと強く感じるようになり、不安よりも好奇心の方が大きくなった気がするからです。興味を持ったものは進んでやるべきだという気持ちになりました。

今回の渡航を通してカナダの医療について知る中でもっと海外の医療事情について詳しくなりたいと思いました。日本とカナダの違いを主に学びましたが、日本でもカナダでも薬剤師は薬のスペシャリストということは変わらないなと感じました。やはり日頃から薬についての学びを深めることが大切だなと実感しました。またバンクーバーには様々な国の方々がいるのを目の当たりにし、日本は今の時点では多国籍国家ではないけれど多国籍の患者さんと接することが出来るように英語の勉強をこれからも続けていきたいと強く思いました。

今回香港で一泊するという大幅なスケジュール変更があり、最初はどうなることかと思いましたが、一緒に参加したメンバー同士で乗り越えることが出来ました。このプログラムを通してお互い仲良くなれたことも忘れられない思い出になりました。

最後にこのプログラムに関わってくださった方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。